

心理学研究科 履修モデルと研究計画

■ 教育研究の目的

札幌国際大学大学院は、地域文化・地域づくりの理論および応用に関して高度な専門知識を教授研究し、文化の進展に寄与する事を目的としています。

大学院心理学研究科では、高度で専門的な職業能力と、社会の要請に応じる事のできる臨床心理実務技能を有する人材を養成する事を目的としています。したがって、本研究科では「臨床心理学研究と臨床心理実務技能の習得」という2つの目標を持って学習を進めています。

■ 履修モデル

本学は財団法人日本臨床心理士資格認定協会より第一種指定校の認定を受けています。修了後、臨床心理士試験の受験の資格が得られます。

履修内容は「臨床心理学の理解」と「臨床心理面接の理解」「臨床心理査定理解」「臨床心理関連領域の理解」を基本としています。

臨床心理学の研究・実践を支える「心理学研究法」「発達研究」「認知研究」「家族臨床研究」「精神障害研究」「精神医学研究」「査定理論研究」「学校臨床研究」等の領域は、各自の将来の進路や課題意識に応じて選択履修します。

心理学研究科臨床心理専攻のカリキュラムは高度の職業的臨床活動を想定しています。したがって心理査定法や心理面接法等は演習・実習が必須となります。査定法・面接法などの実務技能を修得し、学内外の施設・病院での心理援助臨床実習に参加しなければなりません。

実習の体験は、実習報告書として実習施設に提出するほか、学内もしくは学外の心理学専門家が参加する事例検討会で発表することが求められます。

平成30年度から、公認心理師の取得に必要な科目が開講されています。学部において公認心理師の取得に必要な科目を修めている場合には、大学院心理学研究科で公認心理師取得のために必要な科目を修得することによって、公認心理師試験の受験資格を得ることができます。

■ 科目履修

講義科目は、臨床心理学特論Ⅰ・Ⅱ（4単位）と臨床心理面接特論Ⅰ・Ⅱ（4単位）が必修です。さらに臨床心理士資格認定協会の指定する選択必修科目群（A、B、C、D、E群）から1科目以上を必ず履修しなければなりません。

演習科目は、臨床心理査定演習Ⅰ・Ⅱ（4単位）が必修です。知能検査、投映法検査などの修得を通し心理査定を理解し、心理査定の理論と技能の修得を目指します。

実習科目では臨床心理基礎実習Ⅰ・Ⅱ（2単位）、臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習Ⅳ・臨床心理実習Ⅱ（4単位）が必修です。臨床心理実務（インテーク、査定、面接など）の基礎を十分に訓練し（臨床心理基礎実習Ⅰ・Ⅱ）、技能の習得度を確認した上で、学外の臨床心理関連施設で実習します。

学外の実習施設では各施設に勤務する臨床心理士の指導を受けながら、臨床心理の業務の実際を理解します（臨床心理実習Ⅰ）。さらに各自が学んだ臨床心理実務技能と実務に関する理解をもとに、学内に設置されたカウンセリング施設（心理相談研究所）に於いて、実務の訓練を受けます（臨床心理実習Ⅱ）。臨床心理実習Ⅱでは、臨床心理士として活躍してきた実績を持つ研究科教員の指導のもとでインテーク、陪席、心理検査、心理面接などの技能を実践的に修得します。

臨床事例指導Ⅰ・Ⅱでは、自分の担当した事例について指導を受けて事例報告書を作成します。

また、大学付属機関の心理相談研究所が主催する子育て支援の地域活動にも選択科目（心理実践実習Ⅰ）として取り組み、地域での臨床支援の実際を学びます。

公認心理師の資格取得を希望する場合には、公認心理師の受験資格を得るために必要な科目を履修する必要があります。必要な科目は、上記の必修科目以外では、「保健医療分野に関する理論と支援の展開」「福祉分野に関する理論と支援の展開」「教育分野に関する理論と支援の展開」「司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開」「産業・労働分野に関する理論と支援の展開」「心理的アセスメントに関する理論と実践」「心理支援に関する理論と実践」「家族関係・集団・地域社会における心理

支援に関する理論と実践」「心の健康教育に関する理論と実践」「心理実践実習Ⅰ～Ⅴ」になります。また、「心理実践実習Ⅰ～Ⅴ」等の実習科目を履修するためには、事前に修得しておかなければならない科目があります。

■ 課題研究指導

入学者は入学試験を受ける際に、研究に関する事前指導を受けます。入学試験では入学希望者の研究課題に即した研究計画書を提出します。そして入学後に、改めて研究科教員（アドバイザー）の研究計画に関する指導を受けます。2年次には課題研究を指導する担当教員が確定し、この段階で課題研究指導Ⅰ・Ⅱの履修が始まります。

課題研究指導では以下のステップに従い、順次中間結果を発表し研究論文を作成します。「研究倫理審査申請・承認」の段階では、入学時に作成した暫定的研究計画を再検討し、研究の倫理性・妥当性等を高め、具体的な研究活動へと展開します。2回実施される中間報告では、資料収集や分析結果の整合性・妥当性が評価されます。このような中間的な報告を経て、最終的に審査に合格した論文が「修士論文発表会」にて発表されます。

■ 修士論文提出と審査

修士論文のテーマは、臨床心理学に関する実践事例、調査、実験等に基づくものである事が要件です。課題研究指導Ⅰ・Ⅱの指導により学会発表が可能な水準を目指します。

論文作成の指導は、課題研究指導教員と臨床心理士である教員の2名の教員から指導を受けます。研究は課題指導研究指導Ⅰ・Ⅱの履修年次に、研究倫理審査申請をします。研究開始後、前期と後期にそれぞれ中間報告を実施します。

論文の構成は、本文が3万字（原稿用紙75枚）程度とし、十分な論証や分析、考察を臨床心理学的データに関して展開する事が求められます。

論文の提出には、2回の中間報告会にて発表する事が要件とされます。完成した論文原稿は、課題研究指導教員の承認を得て、指定された期限内に提出します。

論文の審査は研究科教員が構成する審査委員会において、論文審査・面接審査が実施されます。審査委員会の結果は、研究科会議および大学院研

究科委員会にて承認され、確定します。

■ 修士課程修了要件

修士課程では、必修科目 26 単位と、A、B、C、D、E の各群からそれぞれ 1 科目 2 単位以上を履修し、合計 38 単位以上を修得しなければなりません。さらに、課題研究論文を提出し修士論文審査に合格することが必要です。修士課程修了により学位「修士（臨床心理）」が授与されます。

参考

札幌国際大学大学院学則 （別表 2 心理学研究科教育課程表）

札幌国際大学学位規則

心理学研究科便覧 （修士論文作成ガイド 課題研究指導審査要領）

心理学研究科修士論文抄録集 第 1 号～第 11 号

心理学研究科臨床心理実習 I 報告書 平成 20 年度～平成 29 年度

札幌国際大学心理相談研究所所報 第 1 号～第 16 号